

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域に根ざし、地域と共に歩み、地域に愛され信頼される学校をめざす。

1. 社会的規範を身につけ、高い目的意識を持ち、希望進路実現に向け、意欲的に勉学に取り組む心身ともにたくましい生徒を育成する。
2. 授業や部活動、ボランティア活動等を通して地域との連携を深め、感性豊かな生徒を育成する。
3. 安全で安心な教育環境のもと、社会人として自立し、社会に貢献する多様な人材を育成する。

2 中期的目標

1 山高プロジェクトによる授業力の向上

－ 夢と志をかなえる確かな学力の育成 －

(1) 授業の充実を図り、自ら学び考える力を育てる。

ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標の実現に向かって努力する生徒集団を育成する。

3年以内に、国公立大学10名以上・関関同立50名以上の合格（現浪合わせて）をめざす。

イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、家庭での学習習慣を確立させる。

ウ 生徒授業アンケート・校内授業研修・授業参観を行って授業改善策に取り組み、生徒の授業満足度・授業取組み度・授業理解度の向上を図る。

※平成 28 年度の生徒向け学校教育自己診断の授業に関するすべての項目において肯定的評価 8 割以上にする。

(2) 図書活動を推進し、将来への夢や志を育み、自分の進路を探索させる。

ア あらゆる教育活動で、読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。

イ 各教科と連携し年間の貸し出し数 10000 冊以上の維持をめざす。

ウ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取り組みを通じ、英語に慣れしみ、英検や TOEFL にチャレンジする意欲を持たせる。

エ 国語科読書マラソンの取り組みを通じ、読書好きの生徒を増やし、言語活動の充実を図る。

※卒業時に生徒全員が英検 3 級を持ち、準 2 級、2 級を 3 割以上が取得している。

2 キャリア教育の充実と希望進路の実現

－ 自立した青年期に相応しい人間性の育成 －

(1) 子どもたち同士の学びあいや学校内外の様々な人々との協働や多様な体験を通して、自尊感情を育て、他者への思いやりにあふれる生徒を育成する。

ア 凡事の徹底を図り規律ある、自主性にあふれた生徒の集団づくりをめざす。

自らの行動を律し規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める生徒集団にする。

イ 将来に夢や目標を持ちその実現努力のために卒業生、同窓会の協力を得て「先輩に学ぶ」機会を設ける。

ウ 部活動入部を働きかけ、入部率を 8 割以上、運動部入部率を 6 割にする。

エ 保護者を「学びのパートナー」としてその参加を引き出し、子どもたちのより充実した「学び」「育ち」の環境を整備する。

※平成 28 年度の学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学んでいる」の肯定的評価を 8 割にする。

(2) キャリア教育の充実を図るために、高大連携・企業連携を推進する。

3 安心して学べる学校環境づくり

(1) 規範意識の向上

ア 基本的生活習慣が確立された生徒を育てる。生徒が安心して学習できる、規律ある授業環境をつくる。

イ メディアリテラシー教育に取り組む。

※平成 28 年度末には、遅刻数 2000 件以内になっている。

(2) 災害時の対応

ア 校内を整理整頓しておく。

イ 災害発生時の登下校の安全確保と生徒が地域でできる支援、役割を考えさせる。日ごろから、地域住民や近隣の幼稚園、小学校、中学校との連携強化を図る。

※教職員や生徒が突然の災害に遭遇しても冷静に対応できるマニュアルの完成、近隣の幼小中学校や地域住民と合同防災・防犯訓練を実施する。

(3) 生徒支援の体制強化

ア 教職員の事務作業時間軽減と生徒情報の一元化と、情報に関する委員会分掌の再編の検討をする。また、これまでの校内分掌の分担内容について見直しを図る。

※文部科学省『学校における教育の情報化の実態等に関する調査』大阪府版で教員の 8 割が「わりにできる」を回答する。

4 交流活動のさらなる推進

(1) 支援学校、地域の園幼小中、異文化交流やボランティア参加で、共生社会の担い手となる生徒を育成する。

(2) 異文化理解教育を推進し、「違いは面白い」ことを理解し、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。

※学校教育自己診断の「国際理解、福祉ボランティア等について学習する機会が多い」という項目の肯定的評価を 8 割以上にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 1 2 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>全体を見ると昨年と大きくは変わっていないが、細かく見ると変化もみられる。</p> <p>学校が楽しいか等（行事、部活動など）全般に関する項目は、肯定評価が 8 割を超える状態を維持している。しかし、昨年と比べるとややポイントを下落している。</p> <p>授業に関する項目は、全体的にポイントがアップした。アンケートにおいて「授業中はしっかりやっている」「授業に満足」「授業について行ける」などは肯定評価が増加している。一方で、相変わらず家庭学習時間は少なく、昨年度と比してもさらに減少している。スマホ等の使用時間が増加し</p>	<p>【第 1 回】7 月 2 日（水）</p> <p>地域連携について次のような意見・提言があった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の予定を地域へおろしてもらえると地域は動きやすい。 ・イベントを行うのが目的ではなく、一緒に物を作ったり遊んだり地域の人と知り合いになることで何か生まれてくる。交流の時間を持つことが大切。 ・本校は避難所になっているので交流を通じて、平素から知っておいてもらう。 ・お年寄りを救助するための講習を定期的に行っていけばいいのでは。有事の際に手を差し伸べようという生徒もでてくるだろう。 ・なんでもやってみようという行動すれば人は変わる。大人がお膳立てするのではなく、示唆し

<p>ていることと関係があると思われる。これらの結果を良く吟味し、授業改善に生かす必要があると思われる。</p> <p>学校生活に関する項目は、「トラブルが少なく落ち着いている」が昨年同様 85%を超えており、日々の実感と一致している。そのなかでも、「先生の指導に納得できる」は 64%と増加、「担任以外に相談できる先生がいる」はやや低下して 45%。「教員は問題を見逃さずに対応している」53%と微増など、細かな変化が見られた。</p> <p>「地域の人との交流機会が多い」は 41%に減少、交流機会は多いが全校的なものが、支援学校との交流（体育祭、文化祭、クラブ交流）に限られるからであろう。「災害時の行動の周知ができていない」は 67%に減少した。</p> <p>家庭生活に関する項目として、「保護者と会話をよくする」は 85%に増加、「昼食に弁当持参」88%に微増など、本校の教育活動への各家庭の理解と協力が伺える。</p> <p>「生き方を考える機会」は 69%と微減した。新課程になり総合的な学習の時間の 2 年生への配当が無くなった事が影響している。HR 等で補う取り組みをしている。</p>	<p>ていくことが大事。</p> <p>【第 2 回】12 月 2 日（火） 授業において、座って静かに授業を受けるだけでは満足しない生徒が出てきているのではないか。課題を見つけそれに基づいてディスカッションしながら一つの結論を導き出す、その過程で教員が支援する。そのような授業の中に地域を絡めていけばよいのでは。</p> <p>【第 3 回】2 月 3 日（火）</p> <p>◆達成できた項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異文化理解教育「違いはおもしろい」がテレビ取材を受け放映される、新たな地域交流として小学校の音楽鑑賞会を本校吹奏楽部が担当、遅刻数の減少、授業に関する肯定的評価が上がった（自己診断アンケート） <p>◆継続して取り組む項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習時間の増加、授業改善、地域交流 <p>◆協議内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習意欲が低い。授業に対する興味関心を高めるためにもアクティブラーニングを取り入れてみてはどうか。 ・道徳的な人間性を育てるためにも、日常生活の中にある小さなボランティア活動が大切。 ・家庭の教育力も大事なため、家庭と連携を強化するとよいのではないか。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 授業の充実を図り、自ら学び考える力を育てる。</p> <p>ア 自己決定に対する「より高い課題」を設定し、より高い進路目標に向かって努力する生徒集団を育成する。</p> <p>イ 成績中位者層・成績不振者層に対する指導を充実させ、基礎学力の定着を図るとともに、家庭での学習習慣を確立させる。</p> <p>ウ 生徒授業アンケート・校内授業研修・授業参観を行って授業改善策に取組み、生徒の授業満足度・授業取組み度・授業理解度の向上を図る。</p> <p>(2) 図書活動を推進し、将来への夢や志を育み、自分の進路を探究させる。</p> <p>ア あらゆる教育活動で、読書活動を通じて、生徒に「生き方・あり方」や「夢・希望」、「志」を考える機会・環境づくりを図る。</p> <p>イ 各教科と連携し年間の貸し出し数 10000 冊以上の維持をめざす。</p> <p>ウ Graded Readers を活用した英語科 Book Report の取組みを進め、英語に慣れしめ、英検や TOEFL にチャレンジする意欲を持たせる。</p> <p>エ 国語科読書マラソンの取組みを進め、読書好きの生徒を増やし、言語活動の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進路指導部・担任団・教科担当が、組織的に生徒に働きかけ、大学進学者全員を、2・3 月入試まで主体的に勉強させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立大学・関関同立合格者数を平成 25 年度実績 25 名の 1 割増をめざし、中期的目標達成への第一歩とする。 <p>イ 各教科が連携し、宿題や予習・復習などの課題を課すことで、一日平均家庭学習の時間を、平成 25 年度より 1 時間多くさせる。</p> <p>ウ 7 月・12 月に生徒授業アンケートを実施し、結果をもとに、自己・教科で改善の方法を考察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者、若手に限らず、全教科・全教員が校内研究授業を実施し授業改善に取り組む。 ・公開授業週間中に、教科内授業見学を実施する。 <p>(2)</p> <p>アイ 国語科・英語科以外の教科において、図書館の活用・読書習慣に結び付ける学習内容を考察し、実践を進める。学習内容に関連する、生徒の興味・関心を惹く図書を紹介し、読書活動を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会と図書委員会が合同で、ミニ読書感想発表会やイングリッシュ発表会を開催する。 <p>ウ Graded Readers の蔵書数をさらに充実させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生全員が英検 3 級を受検し取得をめざす。全員に放課後面接練習を実施する。夏季休業中に準 2 級以上の受検者に集中講習を実施する。 <p>エ 国語科と図書館が連携して、学習単元を補完・補強・さらなる分野に敷衍するような推薦図書・関連図書を生徒に紹介し、読書活動を促す。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「学力生活実態調査」の B・C ランクをそれぞれ前年比 10%増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター試験受験者前年比 20%以上 ・国立大学、関関同立合格者が平成 25 年度実績の 10%以上。 <p>イ 学校教育自己診断における家庭学習時間 1 時間以上の生徒を前年比 25%以上に、家庭学習時間ゼロの生徒を前年比 25%以下にする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断における授業満足度前年比 10%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒授業アンケートにおける「この授業中は、集中して先生の話を聞き、学習に取り組んでいる／この授業では、進んで実習に取り組むなど、授業に積極的に参加している。」「この授業に、興味・関心をもつことができたと感じている。」「この授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。」の 3 項目について、全体の平均値を前年比 10%以上。 ・新採から 10 年以内全員の研究授業を 2 学期に各 1 回実施。 ・(平成 25 年度 4 名/12 名) ・全教科内研究授業の実施。 ・(平成 25 年度 地歴公民科・理科・保健体育科・芸術科・英語科で実施) ・学校教育自己診断で授業に関する項目の肯定的評価 7 割。 ・(平成 25 年度 67%) <p>(2)</p> <p>アイ 図書委員を通して、読書を勧める活動を展開。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書委員を中心に読書感想発表会を図書館で、2 回開催する。 ・貸し出し 11000 冊以上。 ・(平成 25 年度 9500 以上) <p>ウ Graded Readers 5000 冊。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1 年生全員英検 3 級取得。校内、準 2 級と 2 級の合格者 50 名。(平成 25 年度 8 名) <p>エ 読書マラソン提出カードの冊数を、生徒平均 5 冊以上。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 同一学年で見ると、残念ながら 1・2 年の間に上位者が減じ下位者が増える傾向が全ての学年に見られる。3 年生になって V 字回復をはかっているが、この指標には表れていない。2 年 3 学期には受験生としての自覚を持つように指導する。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター受験者は昨年 56 名から今年 49 名に減少した。(△) <p>イ 家庭学習時間 1～3 時間の者は微増したが、それ以上の者が減じたので全体としては減少し、1 時間未満の者が増加した。(△)</p> <p>ウ 学校教育自己診断における授業満足度は平成 25 年度の 67%から今年度 70%と 5 ポイントの上昇した (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートでは、授業参加度は昨年と変わらず 3.3 点、「興味関心」3.15 から 3.07、「身についた」は 3.19 から 3.13 へとも微減した。授業に関する肯定的数値は横ばいであった。(△) ・研究授業は 12 名中 3 名（地歴公民、保健体育）で実施することとどまった。次年度は、各教科毎に年度当初から計画を立てて実施する。(△) ・平成 25 年度 67%→今年度 70% (○) <p>(2)</p> <p>ア、イ 図書委員による読書感想発表会は実施できなかったが、読書推進はポスターや図書館だよりで広く勧めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度の最終貸出数は 9290 冊で、昨年度をやや下回った。2 回入試の関係で 3 学期が短いことの影響を受けている。(○) <p>ウ 英検は校内受験できるように計画しているが、今年度は体育祭日程が重なり、1 月 26 日のみの実施となった。受験者数が少なく、準 2 級、2 級合格者はわずか 3 名にとどまった。(△)</p> <p>エ 平均 5 冊 (○)</p>

<p>2 自立した青年期に相応しい人間性の育成</p>	<p>(1)子どもたち同士の学びあいや学校内外の様々な人々との協働や多様な体験を通して、自尊感情を育て、他者への思いやりにあふれる生徒を育成する。</p> <p>ア 凡事の徹底を図り規律ある、自主性にあふれた生徒の集団づくりをめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの行動を律し規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立に努める生徒集団にする。 <p>イ 将来に夢や目標を持ちその実現努力のために卒業生、同窓会の協力を得て「先輩に学ぶ」機会を設ける。</p> <p>ウ 部活動入部を働きかけ、入部率を8割以上、運動部入部率を6割にする。</p> <p>エ 保護者を「学びのパートナー」としてその参加を引き出し、子どもたちのより充実した「学び」「育ち」の環境を整備する。</p> <p>(2)キャリア教育の充実を図るために、高大連携・企業連携を推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒会役員会の定期的開催、生徒会主催の自主的取り組みを実施し、生徒会活動の活発化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会部が中心になって、生徒会執行部、生徒各委員会などの活動の組織化を図り、生徒の自治意識を高める。 ・「生徒の自治意識を高め、集団づくりをしていく」という学校全体での位置づけが不明瞭なので、来年度は、生徒会部と学年が連携し、ひとつ1つ行事にこの視点を入れる工夫をする。 ・生徒が特に関心を持つ「体育祭」「文化祭」における計画運営面で生徒の活躍場面を増やす。特に、部活動予算(部活動費)の決定プロセスに生徒を関わらせる。 ・各学年において「校外学習」「球技大会」「修学旅行」などを自治意識を育てる場面と位置付ける。これらにより、現状以上の「自主と規律」を促す。(生徒らの活躍する舞台を生徒自身で作り上げる) ・基本的生活習慣、特に元気な挨拶を身につける <p>よう全教職員が協力して取り組む。例えば「挨拶習慣」などを設け、1限空きの教員が正門や各フロアなどに赴き、生徒への声掛けをするなど、教員自身が範を示す。</p> <p>イ 同窓会の協力のもとに各分野で活躍されている人や、在校生に近い年度の卒業生を招き、将来の進路選択、職業選択の参考や指針となる機会をつくる。</p> <p>1年生、2年生は、同窓会の協力を得て生き方や考え方の参考になるものを、3年生は、年齢の近い先輩から体験談を聞くなど、進路選択にかかる経験交流会を実施する。</p> <p>ウ 1年生の部活動への入部率アップをめざし、中学校とのクラブ交流(現在運動部5クラブ実施)を拡大する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニューアルされた学校webページの各クラブのページを活用して、各クラブが情報発信することをさらに促し、多くの中学生に本校部活動を知ってもらう。 ・本校生徒に対しては、部活動便りのようなものを発行し、母校の部活を知るとともに、入部率アップを図る。 <p>エ PTA活動を学校webページにupし、保護者にPTA活動についての理解・関心を持ってもらう。</p> <p>(2)</p> <p>同世代、年少者世代との交流に加え、学校協議会・同窓会・地域の協力を得て、大学生との交流や、企業との交流を通じ、社会人との関わりを増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断・生徒用「学校に行くのが楽しい」「山高に進学してよかった」「山高の学校行事に満足している」「山高の部活動に満足している」「人間関係のトラブル(いじめ、嫌がらせを含む)が少なく、落ち着いた環境で学校生活を送ることができる」、保護者用「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きとしている。」などの項目において、肯定評価を8割から9割をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回、生徒会役員が主となって地域老人会行事へのボランティアを募り参加する。 ・遅刻数が昨年度の10%減。(平成25年度2967名) ・校内で教員・生徒の元気な挨拶が常にかわされている。 <p>イ 学校教育自己診断の生徒向け項目の「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」に肯定的評価が8割。(平成25年71%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、4年制大学、看護医療系学校への進学した先輩との懇談会を開く。 ・学年・同窓会と連携し「先輩に学ぶ」を継続して実施する。 <p>ウ 1年生の入部率9割。運動部入部率6割。(平成25年度1年生入部率83%、運動部5割)</p> <p>エ PTA行事のweb up。</p> <p>(2)</p> <p>近畿大学生との交流、キャリア教育の一環としての企業見学を実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア。「楽しい」「進学してよかった」「落ち着いた環境で学校生活を送ることができる」等は若干ポイントが下がった項目もあるが肯定評価生徒は85%以上を保った。「行事満足」は肯定92%、逆に「部活満足度」の肯定評価はわずかに8割を割った。全体としては(○)。</p> <p>保護者の「生徒が雰囲気が良く生き生きしている」「子供が学校が楽しいと言っている」とともに肯定評価が85%を上回った。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会メンバーで八尾支援学校の学習発表会に参加(○) ・生活指導部統計(8:30分校門遅刻)によると、3月末まで遅刻が減少した。 教務遅刻 平成25年度 2967 平成26年度 2077(◎) ・挨拶や会釈のできる生徒が増えている(○) <p>イ . 横ばいで8割(△)。進路指導部と学年が連携して、色々な機会を作っているが、それが十分に伝わっていない生徒が一定数存在する。どうしても進学メインになることと関係がある。また、新課程になり2年生での総合的な学習の時間の配当がなくなったことも影響をおよぼしているかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職看護医療系に関しては実施、参加人数は合計で80名(○)。 ・2月初旬に実施 1年生全員 前同窓会長 2年生はクラス別 7人(60~70歳)の先輩方から講話を聞く <p>ウ. 1年生入部率7割半 (△) 運動部入部率6割弱 (○) 入部率は年々上昇しているが、やや頭打ち傾向にある。「部活動満足度」の微減と連動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者側、教員側の双方に担当者を設けるなど、次年度への継続課題である。(△) <p>(2)</p> <p>近畿大学見学会やスクールインターンシップ、スクールボランティアの受け入れを継続実施する。企業見学の取り組みは次年度への引き続き検討課題である。(○)</p>
-----------------------------	---	--	---	--

府立山本高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 安心して学べる学校環境づくり</p>	<p>(1) 規範意識の向上 ア 基本的な生活習慣が確立された生徒を育てる。生徒が安心して学習できる、規律ある授業環境をつくる。 イ メディアリテラシー教育に取り組む。</p> <p>(2) 災害時の対応 ア 校内を整理整頓しておく。 イ 災害発生時の登下校の安全確保と生徒が地域でできる支援、役割を考えさせる。日ごろから、地域住民や近隣の幼稚園、小学校、中学校との連携強化を図る。</p> <p>(3) 生徒支援の体制強化 ア 教職員の事務作業時間軽減と生徒情報の一元化と、情報に関する委員会分掌の再編の検討をする。また、これまでの校内分掌の分担内容について見直しを図る。</p>	<p>(1) ア 担任団としての生徒の情報共有を密にするため最低、月に1度は学年会を持つ。 ・生徒に「ベル着」を徹底させるとともに、教員も「ベル着」を励行することにより、授業を大切にす る意識を高める。 ・規律ある授業環境（授業が始まるとロッカー室等に忘れ物を取りに行かせない＝忘れ物をさせない。授業中に内職させない。等）をつくる。 イ 情報の発信伝達、収集獲得について、専門家に全生徒向け講演を依頼、実施する。 ・携帯やPCによる情報通信の危険性についての周知を、保護者向けに、入学式やPTA総会などの機会をとらえて実施する。 ウ PTA 行事</p> <p>(2) ア 学習の集中力アップのためにも全校で整理整頓に取り組む。 イ 校内ビオトープの保護と、八尾市の花植えボランティアに参加し苗を育て、校内緑化に努める。 ・災害時の避難と安全確保について、近隣幼小中園校長と話し合う。</p> <p>(3) ア 「教育委員会情報セキュリティポリシー実施手順の運用」を策定し、情報管理一元化に努める。 ・情報部の新設などを検討する。 ・生徒個人情報を一元管理実施に努める。 ・職員室の掲示板や ICT の活用により、放送による連絡が少なくなるように改善する。 ・各分掌の在り方や仕事分担、人数等の見直しを図り、よりよい運営をめざす。</p>	<p>(1) ア 学年会が月1度必ず実施できている。 ・学校教育自己診断の教員向け項目「生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している」に8割以上が肯定的評価をする。(平成25年度7割) ・学校教育自己診断・生徒用「授業中は集中して勉強している。」の肯定的評価が8割以上。 イ 携帯やPCによる情報通信の危険性について教職員、生徒、保護者の合計3回研修会を開催。</p> <p>(2) ア 教室、職員室、体育館、準備室、がいつも整理整頓できている。 ・清潔な学習環境づくりを進める イ 生徒会・近隣の方たちと、年2回の植栽活動を行う。 ・近隣幼小中と合同の避難訓練や防災研修を実施する。</p> <p>(3) ア 「教育委員会情報セキュリティポリシー実施手順の運用」により情報管理の一元化がされている。 ・職員室の掲示板や ICT の活用により、放送による連絡が少なくなる。</p>	<p>(1) ア 考査毎の学年成績会議を含め年間行事予定表に位置づけている。(○) ・7割で横ばいであった。 ・昨年66%から70%に増加したが、8割には届かなかった。(△)</p> <p>イ 生徒に対しては、科目「社会と情報」(1年)の授業の中で扱った。1年人権HRで、本校実態調査結果を基に行った。教員に対しては「教員人権研修」(2月実施)にて「スマホ、LINEについて」を実施した。保護者向け研修会の実施は次年度への課題(△)</p> <p>(2) イ 今年度は実施できなかった。次年度生徒会を中心に企画する。(△) ・防災の合同訓練の一段階前のステップとして、隣の小学校の挨拶運動への生徒会レベルでの参加などのより、互いに親しくなることから始めてはどうか、との提言があった。次年度に実現に向けて検討する。</p> <p>(3) ア 府からの指示もあり、ばらばらに管理されていた個人情報の管理場所が1つになりつつある。次年度以降校務処理システムの運用と分掌の見直しを並行して検討する(○) ・首席を中心に職員室の黒板の運用が改善された。しかし、大量の掲示物の整理には課題が残る。(○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 交流活動のさらなる推進</p>	<p>(1) 支援学校、地域の園幼小中、異文化交流やボランティア参加で、共生社会の担い手となる生徒を育成する。</p> <p>(2) 異文化理解教育を推進し、「違いは面白い」ことを理解し、グローバル社会に貢献できる人材を育成する。</p>	<p>(1) 八尾支援学校本校と東校ともに、行事交流、英語出前授業やクラブ交流をさらに充実させる。 ・近隣の幼稚園、小中学校、老人会への交流やボランティア参加をさらに積極的に実施する。</p> <p>(2) 英語圏だけでなく、諸外国の異文化理解、異文化交流を進める。ネパール人講師による異文化理解講座「違いがおもしろい」を実施する。 ・英語を「コミュニケーション・ツール」として活用する学習機会(インターネットで英文のサイトを参考文献にしてプレゼンテーションを行う等)を設ける。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断・生徒用「山高では、地域の人々と係る機会が多い」「山高では、近隣の学校と交流する機会が多い」の肯定的評価が6割以上 ・地域や施設へのボランティアの参加生徒数や回数が増える (平成25年度24回)</p> <p>(2) 「異文化コミュニケーション」講座(ネパール人講師)を1年生英語科の授業で各クラス7回以上実施。</p>	<p>(1) 肯定4割と低い。八尾支援学校東校と生徒会交流、体育祭、文化祭、クラブ交流をしているが、生徒の意識が低い。参加生徒への事前指導を充実させること。生徒会を中心に参加を呼び掛けるポスターの掲示や生徒会だより等による結果の報告など、校内へのアピールの強化、等が次年度への課題である。(△) ・八尾支援学校との交流を含め、地域との部活動レベルや授業(「発達と保育」)レベルでの交流が昨年同様積極的に行われた。(H26年度26回)「こころの再生@」で表彰された。(○)</p> <p>(2) 昨年度(1年時)に同様の授業を受けた2年生において、継続・発展の形で行われた(2クラスで7回)。「日本文化の再発見」という成果があった。(◎)</p>